

受身下位分類の判定作業について

2013.4.30 小山田由紀

1. はじめに

レル・ラレルに対するアノテーションは、レル・ラレルを意味別に分析するために必須であるとともに、文体分析の指標などにも有効である。

周知のとおり、レル・ラレルには受身・尊敬・可能・自発の4つの意味があり¹、その相互関係に関する先行研究も多数発表されている。このレル・ラレルの多義性を自動分類する可能性を探るべく、人手によるアノテーションを行った。また、受身・尊敬・自発・可能の4つの意味以外に、レジスターを特徴づける表現についても分類を試みた。

上記のアノテーション作業は一応終了し、引き続いて、受身の下位分類3項目について判定していただく。

2. 作業対象

本作業では『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下、BCCWJ と略す）のコアデータより抽出した、助動詞レル・ラレル全 7,906 件を作業対象とした。

また、書き言葉と話し言葉との比較のため、BCCWJ の国会会議録と『日本語話し言葉コーパス』（以下、CSJ と略す）も作業対象とした。国会会議録は中納言で抽出した助動詞レル・ラレル全 33,320 件から 1,666 件を、CSJ は全 43,590 件から 1,676 件をランダムサンプリングした。それぞれのサンプリング件数は、コアデータの各レジスターの件数が平均 1,600 件であった²ことから決定した。合計 11,248 件である。

上記サンプルには、既に受身・尊敬・可能・自発・決められない³のいずれかの意味が付与されているが、今回の作業では、受身のみが対象となる。対象サンプル数は 3.1. の判定結果の表に示すとおり、BCCWJ が 6,751 件、国会会議録が 1,093 件、CSJ が 1,204 件、併せて 9,048 件である。

¹ 尾上 (1998a,1998b,1999) では、レル・ラレルが後続する動詞や可能動詞などを述語とする文を「出来文」と捉え、通常の4分類に「意図成就」を加えた5分類を提唱している。

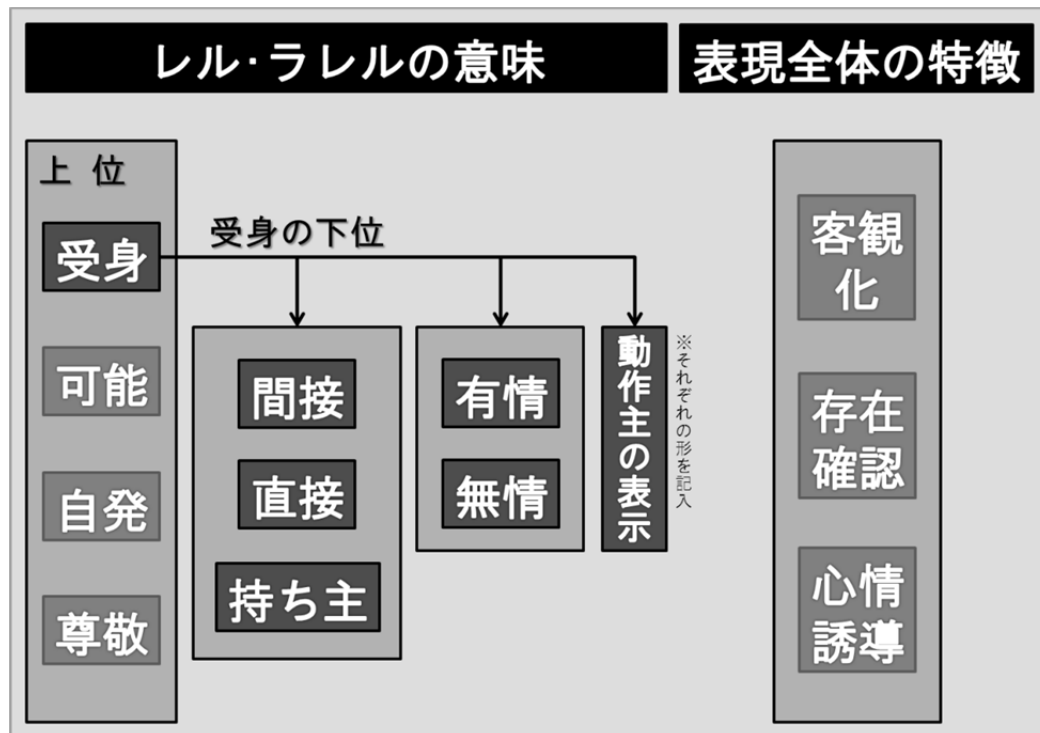
² OC (Yahoo!知恵袋) と OY (Yahoo!ブログ) は、同じ web のデータとして合計値で考えた。

³ 誤字や短単位誤り、メタ表現など。

3. 判定項目

レル・ラレルに対するアノテーション項目は下図のとおり。

今回の作業でアノテーションしていただく受身の下位分類3項目については、次章に詳述する。それ以外の項目は、本作業に直接関係はないが、今までの経緯と共に次節以降に述べる。



3.1. 今までの経緯

まず BCCWJ コアデータに対して複数人による判定作業を行った。レル・ラレルの上位の意味は、受身・可能・自発・尊敬の4つに“受身(客観的)”（次節で詳述）という意味を加えた5つのうちのいずれか1つを付与した。日本人であれば、それぞれの意味についておおまかな共通認識はとれると思われるが、それぞれ意味の捉え方の広さが異なるため、周辺の表現は先行文献でも見解が異なる。そのため、フローチャートを作成し、それを参考に判定作業を行った。

BCCWJ コアデータに対する判定作業で以下の問題が見つかった。

- フローチャートによる作業は現実的ではない。作業者はフローチャートどおりに作業していないと思われる。
- “受身(客観的)” という意味を設けたが、どういう立場（レル・ラレル自体に対するアノテーションなのか、レル・ラレルが付いた表現全体に対するアノテーションなのか）でのラベリングかが不明確である。

そこで、レル・ラレルの意味を4つに戻し、別のレベルとしてレル・ラレルを含む表現全体の特徴を判定することとした。フローチャートによる作業をやめ、判定項目を再考し、判定表を作成した。その判定表を基に、話し言葉（国会会議録と CSJ）に対して複数人による判定作業を行った。

- ◆ 「【参考資料】作業フローチャート.pptx」
- ◆ 「【参考資料】判定表.xlsx」内の「意味判定表」

判定結果については、特に変更した判定項目・判定基準に注意して、筆者が統一・修正作業を行った。手順は以下のとおりである。

- 作業者の判定が一致するサンプルは、基本的に正解とする。
- 作業者の判定が異なるサンプルは、筆者が改めて判定する。
- 判定項目・判定基準が変更になったものは、あたりをつけて修正する。

そのため判定の誤りが残っている可能性が否定できないが、現状の判定結果を下表に示す。

	受身	尊敬	可能	自発	決められない	総計
上位意味	6,751	166	958	20	11	7,906
客観化	214		349			563
存在確認			123			123
心情誘導	16					16

<BCCWJ>

	受身	尊敬	可能	自発	決められない	総計
上位意味	1,093	397	166	6	4	1,666
客観化	61		61			122
存在確認			11			11
心情誘導	1					1

<国会会議録>

	受身	尊敬	可能	自発	決められない	総計
上位意味	1,204	70	374	4	24	1,676
客観化	73		116			189
存在確認			84			84
心情誘導	11					11

<CSJ>

3.2. 表現全体の特徴

表現全体の特徴は、客観化・存在確認・心情誘導の3つを設けた。これらは該当するサンプルにのみ付与し、1サンプルに複数付与してもよい。

客観化と存在確認についてはすでに志波(2009)が意味・構造的なタイプを分析しており、重なることが多い。

- 客観化

「～と見られる」「～と考えられる」「～と言われている」など、論文や白書、新聞などに使われる文体である。“動詞+(ラ)レル”全体で発話者だけの意見でなく専門家

や世論の見方として客観的な内容であるというニュアンスを持たせる表現である。上位の意味は「受身」か「可能」のどちらかになる。判定基準の詳細は、以下を参照のこと。

◆ 「【参考資料】判定表.xlsx」内の「【客観化】判定基準」

- 存在確認
「～に傾向が見られる」「～に特徴が挙げられる」など、“動詞+(ラ)レル”全体で第一義の動詞の意味から離れ対象の存在を表す表現である。必ず意味は「可能」になる。
- 心情誘導
「～に癒される」「～に惹かれる」など、“動詞+(ラ)レル”全体で発話者の感情を表わし、自発の意味に近づく表現である。必ず上位の意味は「受身」になる。出現数はかなり少ない。

4. 受身下位分類の判定項目

4.1. 判定項目決定の経緯

受身文の意味による下位分類は多くの研究者に論じられてきたテーマであり、研究者によって重要度は異なるものの、全く異なる2つの観点が存在する。1つは迷惑の受身か否かという観点、もう1つは主語が影響を被るか否かという観点である。

川村(2004)によれば、2つの観点と受身文との対応関係は以下のようにまとめられる。⁴

- (a) 会議が議長によって召集された。
- (b) 太郎が次郎に殴られた。
- (c) 太郎が次郎に論文を書かれた。

<はた迷惑>	<まとも>	
(c)	(b)	(a)
<被影響>		<無影響>

どちらの観点の研究にも寄与するアノテーションを試みたいが、「迷惑」「影響」という意味を基準にした判定では、作業者による揺れが予想される。そのため、形から判断できる以下3項目に対して判定することとする。

- ・「間接の受身」か「直接の受身」か「持ち主の受身」か
- ・「有情の受身」か「非情の受身」か
- ・動作主の表示

迷惑の受身か否かという観点は、能動文との対応と併せて論じられることが多く、(1)の判定を行う。直前要素（動詞）の自他の判定も有益ではあるが、レル・ラレルの直前要素にだけ行うべきものではなく、もはや受身の下位分類とは言えない。そのため、今回は判定項目としなかった。

主語が影響を被るか否かという観点は、歴史的に近世以前の日本語に認められる受身文か、欧文直訳体を通じて近代以降に広まった受身文かという対立と連動するものとして論じられてきた。主語名詞が有情か非情か、動作主の表示がニカニヨリ・ニヨッテかと併せて論じられることが多く、(2)(3)の判定を行う。

2つの観点と上記3項目の判定とは完全に一致するわけではないが、判断材料にはなるはずである。次節で3項目について詳述する。

4.2. 判定項目の判定基準

4.2.1. 間接・直接・持ち主

項が対応する【レル形】【レルなし形】⁵の有無や型から、以下のとおり判定する。

ただ、日本語の特性や文脈の表示制限から、影響の受け手（主語）も影響の与え手（動作主）も表示されないことが多い。その場合は、レル・ラレルの直前要素⁶の結合価を判断

⁴ 川村は、便宜上、三上章の用語に従って<はた迷惑><まとも>を使っている。

⁵ 前節の説明では、先行研究で主に使われてきた「受身文」「能動文」という表現を継承して使ったが、個人的には文のレベルではないと考える。そのため、本節以降では「受身文」「能動文」の対応を【レル形】【レルなし形】と表現する。

⁶ ほとんどが動詞。他に、助動詞セルと動詞性接尾辞がある。

材料にして推測・判定することになるが、どうしても判定できないサンプルには「決められない」を入力する。

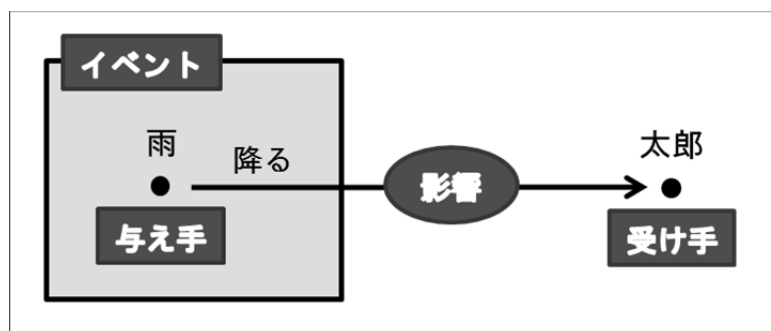
■ 間接の受身

- 項が対応する【レルなし形】を持たない。
- 影響の受け手（主語）はイベントの外にいる。
- イベントの中の要素は1つ（＝自動詞）でも2つ（＝他動詞）でもかまわない。

◆ イベントの中の要素が1つの場合（＝自動詞）

【レルなし形】 α ガ V : 雨が降った。

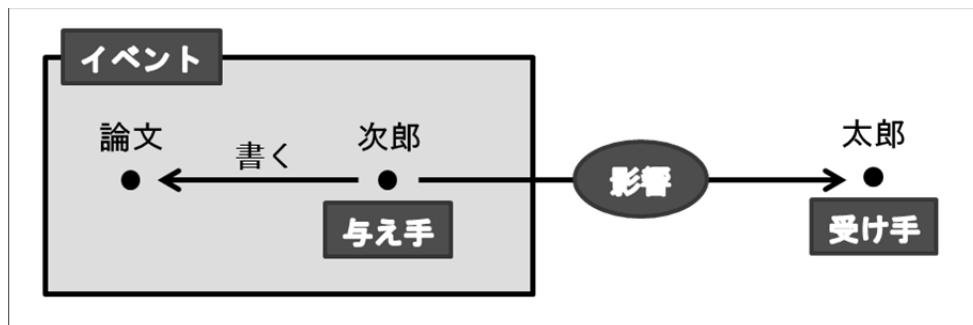
【レル形】 γ ガ α ニ V レル : 太郎が雨に降られた。



◆ イベントの中の要素が2つの場合（＝他動詞）

【レルなし形】 α ガ β ヲ V : 次郎が論文を書いた。

【レル形】 γ ガ α ニ β ヲ V レル : 太郎が次郎に論文を書かれた。



■ 直接の受身

- 項が対応する【レルなし形】を持つ。
- 【レル形】の主格には、【レルなし形】の斜格（主格以外の格）のうち、特にヲ格とニ格とが対応する⁷。
- 影響の受け手（主語）はイベントの中に存在する。

⁷ 斜格にはカラ格やト格なども考えられる。

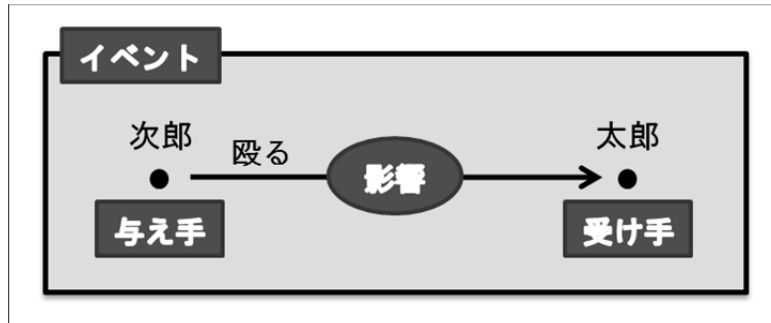
<カラ格> 【レルなし形】 α ガ β カラ δ ヲ V : 警察が太郎から罰金を取った。

【レル形】 β ガ α ニ δ ヲ V レル : 太郎が警察に罰金を取られた。

<ト格> 【レルなし形】 α ガ β ト V : 花子が太郎と絶交した。

【レル形】 β ガ α ニ V レル : 太郎が花子に絶交された。

- イベントの中の要素は2つ（＝他動詞）存在する。
 【レルなし形】 β ガ α ヲ V : 次郎が太郎を殴った。
 【レル形】 α ガ β ニ V レル : 太郎が次郎に殴られた。



■ 持ち主の受身

- 受身文の主語が【レルなし形】の二次的構成要素（斜格のうち、特にヲ格の連体修飾要素）であり⁸、以下の型をとる。
 【レルなし形】 α ガ γ ノ β ヲ V : 次郎が太郎の足を踏んだ。
 【レル形】 γ ガ α ニ β ヲ V レル : 太郎が次郎に足を踏まれた。
- β は γ と何らかの縁のあるもの（広義の所有関係）である⁹。 γ の身体部分、肉親・親類・縁者、持ち物、占有している空間などが考えられる。
- β の種類（有情か非情か）によって、直接の受身への置き換えやすさが異なる。但し、本作業ではこの違いについてアノテーションを行わない。
- 持ち主の受身と同型であっても、レル・ラレルの直前要素がヲ格と二格の両方を必須格とする場合は、直接の受身になるので注意すること。
 【レルなし形】 友人が私にあだ名をつけた。
 【レル形】 私は友人にあだ名をつけられた。 → 直接の受身

◆ 直接の受身と置き換えられる場合

→ 間接的な影響の受け手と直接的な影響の受け手とが存在する。
 → β は有情である。

- 【レルなし形】 α ガ γ ノ β ヲ V : 太郎が花子の母親を殺した。
- 【レル形】 γ ガ α ニ β ヲ V レル : 花子が太郎に母親を殺された。
- ◎ 【直接の受身】 γ ノ β ガ α ニ V レル : 花子の母親は太郎に殺された。

⁸ 斜格には二格なども考えられる。

<二格> 【レルなし形】 α ガ γ ノ β ニ δ ヲ V : 次郎が太郎の腕に包帯を巻いた。
 【レル形】 γ ガ α ニ β ニ δ ヲ V レル : 太郎が次郎に腕に包帯を巻かれた。

⁹ 持ち主の受身と同型の“ γ ガ α ニ β ヲ V レル”であっても、下例のように、本仕様と適合しないものには「決められない」を付与することになる。

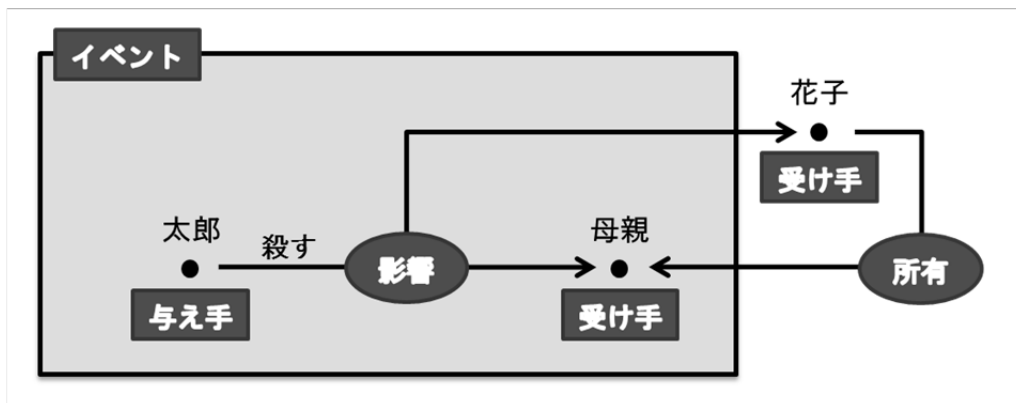
[PM11_00055]

そんなふうに甲斐がいしく世話をやかれると、僕のほうもついついずると甘えてみたくなる。

【レルなし形】 (彼女が) 僕の世話をやく

【レル形】 僕が (彼女に) 世話をやかれる

: β (世話) は γ (僕) と広義の所有関係にない。 α (彼女) の行為である。



◆ 直接の受身と置き換えづらい場合

→ イベント内にはあるものの間接的な影響の受け手しか存在しない。

→ β は非情である。

【レルなし形】 α ガ γ ノ β ヲ V

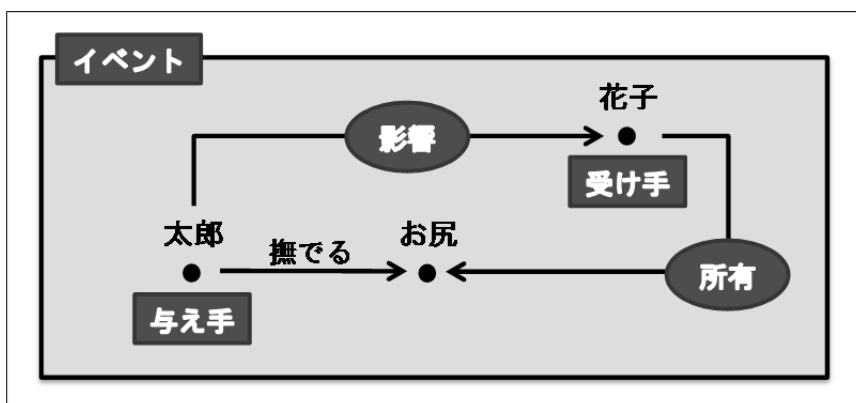
: 太郎が花子のお尻を撫でた。

【レル形】 γ ガ α ニ β ヲ V レル

: 花子が太郎にお尻を撫でられた。

△【直接の受身】 γ ノ β ガ α ニ V レル

: 花子のお尻が太郎に撫でられた。



4.2.2. 有情・非情

【レル形】の主語について、以下のとおり判定する。

■ 有情の受身

- 主語が有情である。主語に人間としての感情がある。
- 非情物を擬人化して表現することがある。組織や動物が多いと思われるが、この場合は「有情：擬人化」を入力する。

■ 非情の受身

- 主語が非情である。
- 表現全体の特徴が客観化の場合には「決められない」を付与する。係助詞ハのように遠くに係る性質の助詞によって主語が表わされる場合や被連体修飾語の場合など、構文としてはレル・ラレルの付いた述語に係ると考えられるものであっても、主たるイ

ベント内の格として判定する。

<構文> (捜査は ((大きな節目を迎えた) と見られている))

<意味> ((捜査は大きな節目を迎えた) と見られている)

- ・ 表現全体の特徴が客観化ではなくても、直前要素がト格 (内容の意) を必要とする動詞にも主語がない場合がある。これも「決められない」を入力する。

[PB10_00047]

((彼が死して天上に行った) とは書かれていない)

- ・ 日本語の性質として省略が多いことや、限られた前文脈での判定であることなどから、主語も次項の動作主も推測・判定できない場合がある。その場合は「決められない」を入力する。

4.2.3. 動作主の表示

【レル形】の動作主¹⁰について、以下のとおり判定する。

- ・ 動作主は、ニやニヨッテ (ニヨリ) だけではなく、他にもカラやデなどで表示されることがある。そのため、助詞 (もしくは助詞相当表現) をそのまま記入する。
- ・ 但し、助詞 (もしくは助詞相当表現) に後続する係助詞や副助詞は記入しない。

[PM31_00101]

しかも北朝鮮兵士は死を厭わず、米軍からも恐れられている →から

参考文献

- (1) 庵功雄 (2001) 『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える』
- (2) 川村大 (2004) 「受身・自発・可能・尊敬—動詞ラレル形の世界—」『朝倉日本語講座 6 文法Ⅱ』
- (3-1) 尾上圭介 (1998) 「文法を考える 5 出来文(1)」『日本語学』17 巻 7 号
- (3-2) 尾上圭介 (1998) 「文法を考える 6 出来文(2)」『日本語学』17 巻 10 号
- (3-3) 尾上圭介 (1999) 「文法を考える 7 出来文(3)」『日本語学』18 巻 1 号
- (4) 志波彩子 (2009) 「認識動詞の非情主語受身文—「見られる」「思われる」「言われる」「呼ばれる」を中心に—」東京外国語大学『日本研究教育年報』13
- (5) 柴谷方良 (1997) 「「迷感受身」の意味論」『日本語文法 体系と方法』第 14 巻

¹⁰ 【レルなし形】での主語は【レル形】ではどのように表記されるかというのが正確な表現で、動作主ばかりではない。例えば、存在を意味するものは動作主とはいえない。意味に踏み込んで、動作主に限定することは避けて判定して欲しい。

[PN4c_00011]

総額には通常の農業予算も含まれており、農民をだましている。

【レルなし形】総額が通常の農業予算を含む

【レル形】総額に通常の農業予算が含まれる